

公認会計士「研修出向制度」 体験者レポート

vol. 12 取材・文／南山武志 撮影／大平晋也

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・レポートをお届けする。



**経験者の勧めもあって
出向に手を挙げた**

——大学を出て、一度一般企業に入社していますね。

水地 公認会計士の資格を取ろうと思ったのは、社会人になってからです。仕事に100%満足していなかったのと、とある個人的な理由で、どうしても会計士になりたい、と決意しました。大学は商学部だったものの、簿記や会計を学んではいなかったため、一からの勉強でした。

——監査法人では、どんな企業を担当されたのですか？

水地 メインで担当したのは、連結子会社を300社ほど持つ、日本を代表するグローバル企業でした。海外も含めてグループ経営はすべて本社がマネジメントしていて、在庫管理一つとっても、現場レベルまで徹底されています。たまたま別の会社の監査を手伝うことがあったのですが、普通の企業なのに、「前述した某社と比べると、お金にまつわる管理の仕方が甘い」と感じてしまうほど。一事が万事で、いいものづくりをし、頻繁に経済新聞に取り上げられるような企業は、ベースのところから違うんだ、ということを感じましたね。

——「出向制度」には、自ら手を挙げたのですか？

化学メーカーであるクラレは、サプライチェーンの川上に位置し、取引先も多岐にわたります。また、グローバル化が急速に進展、かつ、各事業部が多角化する事業を主体的にハンドリングしているため、情報のすべてがすぐに本社経理部に集約されるわけではありません。決算間近になって、大きな問題が上がってくることもあります。それを会計上しっかり手当てし、さらに税務面でも不利にならないように処理していくというのは、けっこう骨の折れる仕事。でもそれだけにやりがいを感じるし、うまくいった時の達成感には、何物にも代えがたいものがありますね。ある案件についてみんなでディスカッションして理論づけていく面白さは、監査法人時代にはなかったものです。

——今後の課題、目標について教えてください。

水地 仕事は経理と税務が半々と言いましたが、実は税務に関しては、まだ先輩社員の方々に「おんぶに抱っこ」の状態、問題点が上がってきて自分では結論が出せず、メッセージャー的なことしかできていないのが実情です。グローバル化を進めるうえで、国際税務への対応も非常にクローズアップ



経理部に配属された2日目、「監査法人とのミーティングに出てほしい」と言われたのです。同席し話を聞いていたら、先輩社員が監査法人の会計士との問答に、五角以上に渡り合っている。驚きました。えらいところに来てしまったと（笑）。

**主体的に動き
事業拡大に貢献したい**

——経理部での具体的な仕事の身を教えてください。

水地 例えばIFRSの導入だとか、ある一つの課題を与えられるのではなく、普通に伝票をつけたり開示書類をつくったりという経理業務と税務の仕事が半々、というスタンスで仕事をしています。そうした通常業務をこなしつつ、ミーティングなどを通じて専門家としての視点で意見を言ったり解決



株式会社クラレ 経理・財務本部 経理部
水地一彰 ● 32歳

**提供価値を増やすため、
専門の会計知識以外に、
今後は税務知識も高めたい**

水地 はい。たまたま同じ監査チームの近しかった先輩がこの制度の「第一期生」として出向し、2期目には私と同期の人間が応募しました。彼らと話すとき、異口同音に「出向しないと得られない経験がある。出ない手はないよ」と言うわけです。私自身、会計士の資格は欲しかったけれども、必ずしも監査一筋で、と心に決めていたわけではありませんでした。それで、会計士登録した翌年の2012年に応募したので。

——クラレの印象は？

水地 テレビCMは知っていましたが、最初は正直、何かの素材をつくっているメーカーという程度の認識でした。

——お願いします。

水地 出向してよかったと思うことの一つは、自分のどんな価値を発揮すれば会社に貢献できるのか、という視点が持てたことですね。先に出向した監査法人の先輩たちの言っていたことは正しかった。「どうしようか悩んでいるのだったら、思い切って一度外に出てみたら」と僕も勧めたいと思います。

実際に、会社にはそうした問題意識を理解していただき、研鑽の機会も与えられています。海外子会社の経理担当者を集めたミーティングを行った時には、移転価格税制についてのプレゼンを英語でやるよう、指名されました。自分の英語力自体が怪しいうえに、税制の知識もまだまだ稚拙でしたが、やったおかげで大変勉強になりました。そうした期待に応えられるよう、とにかく主体的にものごとに取り組んで、経理部で本当に信頼される存在になりたいですね。

——最後に、会計士へのメッセージを

出向受け入れ企業の声

**予想以上のパフォーマンス。
今後も同制度を活用したい**



株式会社クラレ 執行役員 経理・財務本部長
前田公平

経理部には現在3名の会計士がいる。いずれも日本CFO協会の「出向制度」で来てもらった人たちが、みんな優秀なうえにオープンマインドに取り組んでもらっており感謝している。経理・財務の仕事には判断上のグレーゾーンがつきものだ。例えば従来はある会計情報を開示すべきか否かは実務慣行に従うことが多かったが、事業のグローバル化や会計制度の改革など環境が大きく変化するなかで明確な開示基準を持つ必要性が強く意識されるようになった。しかし、いかんせん我々実務家はそうした理論的な改革の話になると弱い。その点、水地さんの専門家としての提案はいつも目からウロコで大きな刺激になっている。「出向制度」のおかげで内部のディスカッションの質も高まり組織も活性化した。とにかくやってみようの精神で利用し始めた制度だが、今後も大いに活用したい。

Kazuaki Mizuchi Profile

1981年3月11日 福岡市城南区生まれ
2003年3月 明治大学商学部卒業
4月 株式会社レオパレス21入社
2005年3月 同社退職
2007年11月 公認会計士試験合格
新日本有限責任監査法人入所
2012年7月 株式会社クラレへ出向
家族構成=妻